

平成29年度 長野県女性審判研修会 報告書

1. 目的

女性審判員の審判技術向上ならびに普及育成

2. 目標

- ①上級審判員数を10名にする.
- ②日本公認B級審判員数を100名にする.
- ③ブロック女性審判講習会を笹本杯1部女子の試合で実施できるレベルまで引き上げる.

3. 具体策

- ①コンセプトを統一することで、一貫した審判技術を身に付けるとともに意識の共有に努める.
- ②各県毎で実施している講習会において、情報を公開し交流を図ることで活動意義や課題を明確にし、日々の活動の活力とする.

4. 効果

- ②研修会に新しい仲間を集り、審判を志すきっかけの場とする.
- ③審判法の基盤を確立し、安定した判定力を身に付ける.

5. 開催日時・会場

日程：平成29年11月18日（土）		
集合・挨拶	12:30～	
アップ開始	12:40～	
ドリル開始	13:00～	休憩を入れながらミニゲーム実施
終了	16:30	
挨拶・掃除終了後 解散		

会場：公立大学法人長野大学体育館（〒386-1298 長野県上田市大字下之郷 658-1）

協力チーム：長野大学女子バスケットボール部、長野大学クラブ、フカガワ

6. 参加者

石川県 B級 1名

長野県 S級 1名 B級 8名 C級 1名 E級以下 10名

合計 21名

7. 研修会の様子



[協力チームへの挨拶]



コミュニケーションについて

- ・ 2人で協力してゲームを運営する時に大切になるのが「コミュニケーション」です。
- ・ ゲーム前は自分の知る限りの情報を相手と共有し、想定される場面について約束事を決めます。ゲーム終了後は、次回に繋がるよう振り返りを行います。ゲーム中は会話ができないことが多いのでEye contact (OKサイン) という便利なコミュニケーション手段を用います。
- ・ 実技では必ずパートナーとEye contact (OKサイン) をしてから始めて下さい。OKサインを出すということは、2人の審判の準備が整うということはもちろん、プレイヤー、T0なども含め、「ゲームを始める準備が整った」ということになります。確認をしてから始めて下さい。



笛の吹き方、ジェスチャー、姿勢について

- ・ 3S (sharp、short、strong) を意識しましょう。
- ・ 顔の前にスクリーンがあるイメージでメリハリをつけしっかりと行いましょう。
- ・ 姿勢は、堂々と胸を張って行いましょう。

【実技】

- ①時間を止める合図。
- ②ファウルの手の上げ方、ヴァイオレイションの手の上げ方。
- ③白4番・ブロッキング・2ショット 等のコールの練習。声も使って行いましょう。

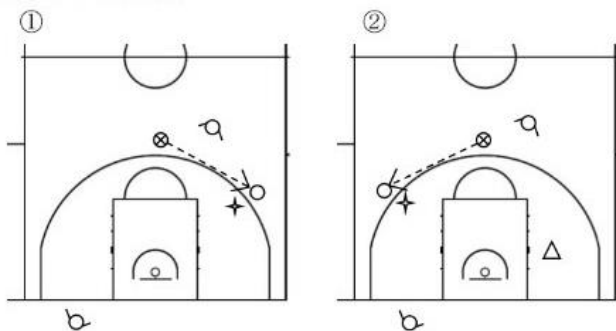


トレイル、リードについて

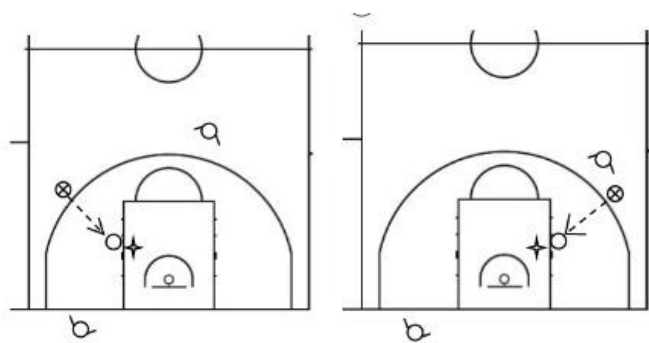
- ・ センターライン付近からプレイをとらえる審判を「トレイルレフリー」と言い、エンドライン側からプレイをとらえる人を「リードレフリー」と言います。
- ・ トレイルレフリーは、横からプレイを捉え、リードレフリーは縦からプレイを捉え、2人で編み目のようにプレイを捉えます。
- ・ ゲーム中、2人で10人のプレイヤーを視野に入れることを「ボクシングイン」と言います。

【1対1】

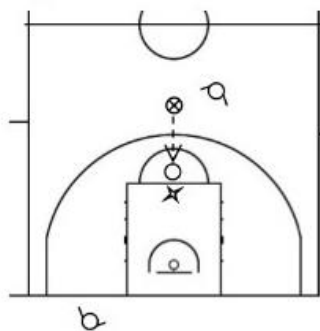
<1-① 45度の1対1>



<1-② ミドルポストの1対1>



<1-③ ハイポストの1対1>



[クロスステップ]

プレイを捉える方法として、プレイが進む方向とは逆にステップしてアングルをとる技術です。

【2対2】



審判の責任範囲

- ・ハーフコートをも1～6のエリアに区分します。エリア1～3とエリア6の3ポイントエリアの外側をトレイル、エリア4をリードが責任を持ってプレイを見ます。エリア5とエリア6のスリーポイントラインの内側は2人で手厚くプレイを見ます。

<2-① 45度のスクリーン>



スクリーナーが止まっていて、両足が床に着いた状態で、シリンダー内で身体の触れ合いが起こるプレイのことを「リーガル・スクリーン」と言います。

スクリーンの位置のしめ方

- ・止まっている相手チームのプレイヤーの前か横(視野の中)でスクリーンをしようとするプレイヤーは、触れ合いを起こさない限り相手の近くに位置を占めてよい。また、止まっている相手のチームプレイヤーのうしろ(視野の外)でスクリーンしようとするプレイヤーは、相手が普通に動いていても触れ合いが起こらない1歩の距離をおいて位置を占めなければならない。
- ・動いている相手チームのプレイヤーをスクリーンしようとする時は、相手の速さとスクリーンの位置までの距離を考慮しなければならない。また、相手が止まったり方向を変えたりして触れ合いを避けられるだけの距離(通常の1～2歩の間)をおいて位置を占めなければならない。

イリーガル・スクリーン

- ・相手の動きにつれて動いてスクリーンをかける。
- ・止まっている相手のうしろ(視野の外)でスクリーンの位置を占める。
- ・動いている相手のプレイヤーの進路上に、相手が止まったり方向を変えたりして触れ合いを避けられるだけの距離をおかずにスクリーンの位置を占めてスクリーンをかける。
- ・シリンダーを越えた手・腕・肘・足・お尻等身体の一部を不当に使ってスクリーンをかける。

<2-② カutting>



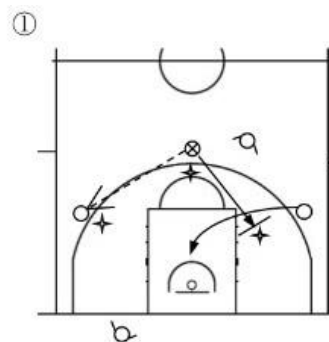
<2-③ ハイロー>



- ・リードは右に積極的にプレイを見に行くことに挑戦しましょう。
- ・基本的に、プレイが始まる横のスペースはトレイル、ショットに向かう縦のスペースはリードが受ける意識を持ちます。さらに、トレイルは自分のエリアから始まるドライブに対して責任を持って最後まで確認することが大切です。最初にプレイを捉えていた位置からクロスステップを使い、ファウルがないかしっかりと確認を行ってください。
- ・リードが左側に留まってドライブを判定する時は、ゴール下へ吸い込まれないように注意して下さい。リードが右に来ることができなかった場合は、トレイルが責任を持って捉えます。

【3対3】

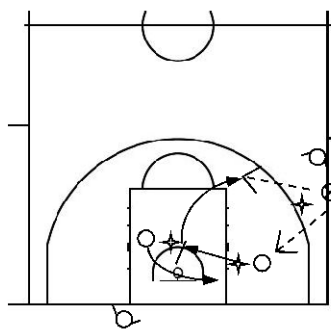
<3-①-1 パスがエリア3へ展開>



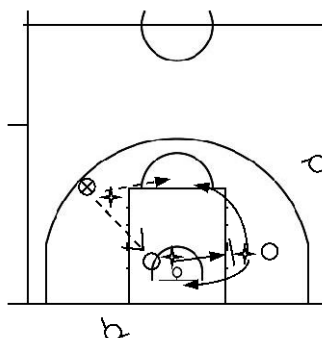
<3-①-2 パスがエリア1へ展開>



<3-②-1 サイドラインのボール出し>



<3-②-2 エリア3に展開された場合>





ボール中心とならないよう注意しながらトレイルとリードの視野分担を確認しました。
どちらがオンボールを見るのか、オフボールを見るとは具体的にどのようなプレイに着眼するか…
試行錯誤しながらも徐々に判定へ繋げることができました！！

【ミニゲーム】



8. 感想・今後の課題

今年度の研修会より、北信越ブロック内の他県との交流も兼ねた新たな試みが始まりました。長野県開催では石川県よりおひとりの参加者がありました。このような県を超えた環境での審判活動を行う機会が今以上に増えることで、お互いのモチベーション向上にもなり、私たちが掲げる目標に少しでも近づけるのではないかと信じています。このような研修会の場を提案して下さった石川県中江氏、また、研修会の実施を快諾して下さった川端ブロック長をはじめ、各県審判長の皆様に深く感謝しております。ありがとうございました。

昨年度より女性研修会および講習会の準備グループを長野県強化メンバーを中心に作り、研修会の企画・運営を行っていただいています。メンバーの中でも参加者に責任を持って説明するという事は、今一度基本を振り返る良い機会と感じております。そういった県内で中心となって活動しているメンバーの言葉に真摯に耳を傾け、真剣に取り組んでいる参加者皆様の姿が印象的でした。研修会に参加する方々の学びの場であるとともに、企画する私たちの学びの場でもありました。

今後、この研修会をより多くの方々に興味を持って参加していただけるよう広めていくことは一番の課題であると思います。解決策として、東北信、中南信などもっとエリアを区切った開催も視野に入れていきたいと考えております。また、それぞれの社会人チームや大学生・高校生をはじめとする指導者およびマネージャーなど審判に携わる方々にもお声掛けできればと思います。

女性審判員を増やすためにもまずは日々のオンザコートを大切にこれからも女性審判員皆で、一致団結して頑張っていきたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



ご協力いただいた長野大学の皆様、長野大学クラブの皆様、フカガワの皆様と一緒に記念撮影！

ありがとうございました